

第2回碩田中学校区新設校開校準備委員会 会議要旨

日時：平成27年8月18日（火）19:00～20:30

場所：大分市教育センター・302 研修室

○出席者 18名

1. 開会のことば

2. 委員長あいさつ

3. 議事

（1）経過報告

- ・第2回開校準備委員会までの経過、関連する法改正について説明する。

（2）各専門部会からの報告・協議について

①報告及び協議

- ・各専門部会より、報告と協議を併せて20分程度の時間を設定する。

【学校部会】

- ・資料10～13ページを基に安東委員から校名案の募集方法等について説明される。

<主な意見>

〔委員〕義務教育学校にするかどうかが決まらなないと、学校名を考えるのは難しい。体制を先に決めておかないと学校名は出てこない気がする。

〔委員〕学校の種類として、義務教育学校にするか、現行の小・中学校にするかは今後検討していく。

〔委員〕資料10ページの一番上にあるように、校名案の検討については〇〇の部分を決めていただく。義務教育学校になった場合と、小・中学校になった場合とで分ける必要はないと考える。

〔委員〕4-3-2制について、義務教育学校になった場合はこの体制はなくなるのか。

〔委員〕義務教育学校にするかどうかとは全く別の話なので、どちらの形になろうとも4-3-2制とする。

★ 確認事項

○学校の種類として、義務教育学校とするか、現行の小・中学校とするかは今後検討する。

○資料12、13ページの「校名案募集要領」（「校名案募集について」）により、校名案を募集する。

○校名案の検討と並行して、今後制服についても検討していく。

【学校支援部会】

- ・資料14ページ、別紙資料を基に通学路の案について、スクリーンを使って山岡委員から説明される。

＜主な意見＞

〔委員〕老朽化した歩道橋の改善や、防犯灯などの設備的な要求はできるか。また防犯上のことを考えると、中心市街地循環バスの路線を延長して、中心部で運行ができるかの検討をしてほしい。

〔委員〕具体的な検討をこの場で協議するのは難しいので、細かなことについては今後関係機関と協議をして、どこを改善すればよいとか、場合によっては通学路の再検討もありうるとか、見守り活動を含めた交通指導は今後どうしていくか等を検討していく。

★ 確認事項

- 通学路（案）が報告され、今後は3校区から出た要望事項を、警察や市などの関係機関と調整を図りながら検討していく。
- PTA組織については今後検討していく。

【施設部会】

- ・資料15ページを基に岩本委員から、防災備品の設置、施設開放や管理などを検討課題とすることが説明される。

★ 確認事項

- 異議なく承認される。
- 今後は、備品、施設開放について検討していく。

②その他関連する事項の協議

- ・今回予定はなかったため、報告等があれば発言する時間を設ける。

★ 確認事項

- 資料12、13ページの「校名案募集要領」（「校名案募集について」）については、9月1日号の市報配布に合わせて回覧をする。

(3) その他

- ・事務局より、次回の日程について説明する。

★ 確認事項

○第3回の開校準備委員会は、11月17日（火）の19時から大分市教育センターの202研修室で開催する。

4. アドバイザーからの助言

- ・アドバイザーである大分大学教育福祉科学部の伊藤教授、日本文理大学工学部の西村准教授より、助言をいただく。

【アドバイザーから】

- ・名称に関する考え方としては、この地域に新しく出来る学校に地域がどういう願いを持つのか、それが表現されればいいと思う。子どもが生まれる時、どのような子どもが生まれてくるかは分からない中で、親はさまざまな思いや願いを込めて、生まれた子どもに名前をつける。そのことと同じだと考えればいいのだと思う。今私たちに出来ることは、どういう期待や希望をその学校に持つのか、子どもたちにどういう成長をしてもらいたいのか、そういうことを表現するのが、学校の名称を決めるということだと思う。
- ・通学路は子どもたちになにかあったときの生命線で、私たちはそこをたどって子どもの安否を確かめることとなるので、しっかりと検討しないといけない。地域の方が、その地域のことは一番よくご存知だと思うので、安全第一に考えていただきたい。
- ・学校を創るときには、建物もさることながら、家具が大事であるという方向性が示されている。今後は、校舎の建設にあたって、収納スペースの確保ということも含めて、内装等を想定しながら、家具のデザインを合わせていくような検討を進める必要があると思う。

5. 閉会のことば